

令和4年度第1回 独立行政法人国立重度知的障害者  
総合施設のぞみの園運営懇談会議事要旨

令和4年10月21日(金)  
10:30~12:00  
田中資料センター

I 開 会

II 理事長挨拶

III 議 事

1. 入所利用者の状況
2. 独立行政法人評価に関する有識者会議について
  - (1) 令和3事業年度の業務実績評価について
  - (2) 第4期中期目標期間(平成30年度~令和4年度)見込評価について
3. のぞみの園における業務の取組状況
  - (1) 高齢の入所利用者に対する支援
  - (2) 著しい行動障害を有する者への支援
  - (3) 矯正施設を退所した知的障害者への支援
  - (4) 業務運営の効率化
  - (5) 新型コロナウイルス感染症への対応(令和4年度上半期)
  - (6) 東アジア・ASEAN 経済研究センター(ERIA) 研究事業の状況
4. 国立施設との連携
5. 日中サービス支援型グループホームの進捗状況

IV 報告事項等

6. 令和4年度 調査・研究テーマ
7. 令和4年度 セミナー・研修会の実績・予定
8. 事故等の報告について

V 閉 会

【議事に対する主な質疑(○:委員、●:のぞみの園)】

1. 入所利用者の状況について

- :旧コロニーからの利用者の入所1名は、一度退所した利用者が再入所したということか。
- :GHへ地域移行した利用者が、体調面が悪化したことによりGHでの生活が困難になったため再入所した。
- :今後、利用者数はどのように推移していくと見込んでいるか。
- :地域移行やお亡くなり等により減少していく事が見込まれる。

2. 独立行政法人評価に関する有識者会議について

- :研究成果はどのように広めているのか。

- ：研究成果の情報発信については、ニュースレターを約 4000 部発行し、また研究をまとめた紀要を公表している。4000 部の配布先は、全国の障害者支援施設や児童福祉施設のほか、地域の定着支援センター、事業団等の関係団体、研究に携わって頂いた方々に配布している。  
さらに、学会や研修の場で公表したり、研修については、一部HPでも公表している。
- 現在、知的障害者施設に関わる看護師向けの研修、育成、テキスト作成に係る研究を始めている。もう 1 つは、知的障害のある認知症ケアについて情報交換ができるセミナーの開催や、記録様式の組立等を研究している。出来次第、情報発信をしていきたい。
- ：矯正施設退所者の受入はどのような状況か。
- ：矯正施設退所者については、ここ数年は受入目標に対して受入れが少なくなっている。矯正施設の退所者は福祉に結びつかない方が対象であったが、地域定着支援センターが機能し始めていることもあり少なくなっている。また多様な背景を抱えている方々がのぞみの園に入り始めている。全体、総数的に少なくなってきた状況があるが引き続き支援が困難な方を受け入れていくという考え方に変わりはない。
- ：はるな郷との連携はあるか。
- ：はるな郷は地域定着支援センターを受託しているので、その関係で関わりがある。また入所調整等でも連携している。
- ：ニュースレターについて現場からの反応はいかがか。
- ：レターを読んだ施設からは、直接助言を受けたいなどの講演依頼や照会等がある。
- ：見込評価で援助助言はA評価を受けており素晴らしいが、のぞみの園に援助助言を求めることを敷居が高いと感じる人もいると思う。何か工夫されているのか。
- ：当初は件数が少なかったが、援助助言用のパンフレットを作成しニュースレターに同封したり、研修や講演が増えてきているので、その場で助言したりして件数が徐々に増えてきているものと考えている。
- ：年度評価や見込評価について、もっと努力するような評価はあったか。
- ：今回の評価は、コロナ禍を考慮して評価していただいており目標数値に達しない項目もあった。一方、研修については集合開催ができなかったところ、Web開催により行い満足度が増えているので、そのような点については評価していただいた。今後も目標達成に向けてさらに努力したい。

### 3. のぞみに園における業務の取組状況

- ：ターミナルケアについて、利用者や保護者との意思決定について参考となる事例はあるか。
- ：ターミナルケアについては始めたばかりであり、紹介できる事例はまだない。
- ：ターミナルケアの内容について、いつ頃保護者会に説明いただけるか。
- ：のぞみの園としてのマニュアルを策定中であり、年度末までに作成できるよう努めている。出来上がり次第ご説明したい。
- ：コロナ対応について、コロナワクチン接種者と未接種者で症状に違いはあるのか。未接種の方にワクチン接種を促す必要性はあるのか。

- ：利用者の体調及び保護者の同意もあるが、職員を含め接種率は90%を超えると認識している。全体的に症状の違いは把握できていないが、入院となった1人は非接種であった。
- ：地域移行について、地域移行するにあたり移行先との環境整備・連携はどうなっているのか。
- ：支援方法については書面にまとめて引継ぎをしている。環境整備はすべての移行先で対応することは難しいと思われるので、フォローアップ等で対応している。粗暴行為や破壊行動等の問題行動が軽減するポイントを押さえた環境を準備していただくことで比較的スムーズに移行ができています。また、移行先に職員を派遣しての環境の確認、移行先から職員に来園していただき、実際にしているところと一緒に関わっていただくとか、出来る方に限り移行先のご本人に行っていただき、経験・体験を積んでいただいて相手方の職員にもその環境でできるかどうかアセスメントしていただくとか、それらがまとまったらご本人をお連れして、お連れした日は職員も1泊し、状況を確認して戻る。そのあとも定期的に連絡を取りあい、支援方法が崩れる前に事前に連絡を頂き、職員を派遣するなどして丁寧に行っている。
- ：受入先と移行先は違うのか。
- ：基本的には同じ場所ですが、在宅から在宅に戻すには家庭内で崩れているケースが多いので難しい。入所施設から入所施設もしくは、在宅から受け入れた場合はグループホームへ移行するケースがある。
- ：矯正施設を退所した知的障害者への支援で複雑な課題と対応方法は
- ：様々な被害体験があり、うまく言語化できず自分の症状が訴えられないため相互に理解が進まないため、心理的な部分で関わっている方にコンサルを受けている。主に虐待を背景とした問題を抱えている方が多く、トラウマに対する治療・対応が求められている。
- ：傾向として犯罪の中身は。
- ：様々。一番多いのは窃盗。性的犯罪などの加害行為の方もいる。

#### 4. 国立施設との連携

- ：民間施設との連携はあるのか。
- ：著しい行動障害を有する者への支援に関し先進的な取組を行っている施設への研修派遣や、人事交流を行っている。

#### 5. 日中サービス支援型グループホームの進捗状況

- ：日中サービス支援型グループホームを利用する方はのぞみの園の利用者か。
- ：のぞみの園の利用者を中心に考えている。
- ：のぞみの園から日中サービス支援型グループホームへ移行するにあたり、利用者の費用や法人の収入等についてどう変化するのか。
- ：利用者については介護保険の対象となる。費用については差がないと考える。法人の収入は施設入所と比較すると低くなるが、日中の生活介護収入については高くなると思われる。

- ：定員 20 名はすぐに埋まるのか。
- ：現在保護者への説明を行っているところであるが、最初からは難しいと思う。
- ：施設入所とグループホームとの利用者の区分けはどう考えているか。
- ：重篤な医療が必要な利用者はグループホームへの移行は難しいと考えている。町の中で生活することが楽しめる等の利用者が良いと考えている。意思表示をすることが難しくなっているため、グループホームの体験利用をしていただき利用者の反応を見て考えていきたい。
- ：グループホームへ移った場合は計画の地域移行の人数に含まれるのか。
- ：含まれる。
- ：グループホームは増設を考えているか。
- ：財源を考慮して検討することになるが、施設は老朽化していくので、可能な限り視野に入れて考えていきたい。
- ：医療的・重介護支援の寮も対象として9か寮としているが齟齬はないか。
- ：医療的・重介護支援寮の中には医療的ケアが軽微な利用者、意思表示をすることができる利用者があるので、そのような利用者の状態像を中心に移行対象として考えていきたい。

#### 報告事項について

- ：事故報告について、利用者の高齢化と事故について相関はあるか、対応はどうしているか。
- ：事故件数と年齢との相関はないと思われる。転倒の件数は10年間で比較すると年齢とともに増えてきている。骨折については、車いすを利用する方が増えてきているので骨折については減少傾向。誤嚥については職員研修や食事提供の配慮を行っているため減少してきている。原因不明の転倒については機能低下によると考えられるものが増えてきている。対策については難しいところであるが、事故防止対策委員会からも厳しく防止対策を検討するよう依頼されている。
- ：高齢化に伴う機能低下や認知症等により事故が増える傾向にあるが、調査研究にもあるようにしっかりと対応し現場に生かして、今後も誠意な対応をお願いしたい。
- ：4件の誤与薬は人的な問題か、システムの問題か。
- ：今回は、グループホームでコロナ感染者が発生してしまい応援職員を配置した時の不注意による人的ミスになる。
- ：研究のテーマはどのように決めているのか。
- ：外部委員を招聘した研究調整会議を開催し、その会議において意見を求め決めている。補助金研究については国等に申請して決めている。法人内研究については、職員の問題意識等を研究部で集約し、研究調整会議等で決めている。
- ：研究は毎年10件位あるのか。
- ：年々増えてきている。成果等は、ニュースレターやセミナーで発信している。